

## オオハクチョウの渡去群の行動

玉田 誠, 岡本義夫\*

Observation Records on the V-shape Formation of the Migrating Whooper Swans

Makoto Tamada\* and Yoshio Okamoto\*

**Summary:** Process of the V-shape formation in the course of migration of the Whooper Swan *Cygnus cygnus* near Lake Tofutsu in 1981. Details of the process are shown Fig.2.

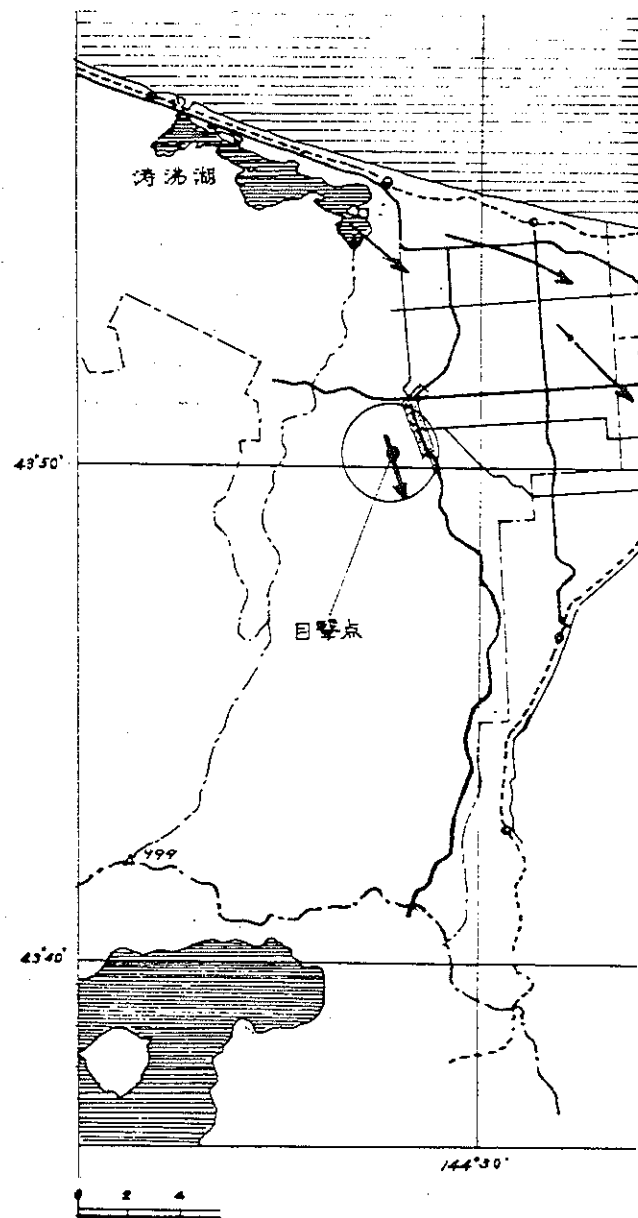
ハクチョウ類をはじめとするガン・カモ類は渡りの際にカギ型になって飛ぶ、所謂“雁行”することが知られているが、この形態に至るまでのプロセスについては余り詳細な記載がない。このたび偶然にオオハクチョウの群れ形成の過程を目撃したので参考に供したいと思う。

オオハクチョウの群れ形成の過程を目撃したのは、北方からわが国への渡来が開始されて間もなくの1981年10月26日の午後のことで、オオハクチョウが北海道網走の濤沸湖に羽を休めたあとさらに南下する際に目撃されたものである。これに先立ち濤沸湖では同じ日の午前にも北方からの大群を迎えている。

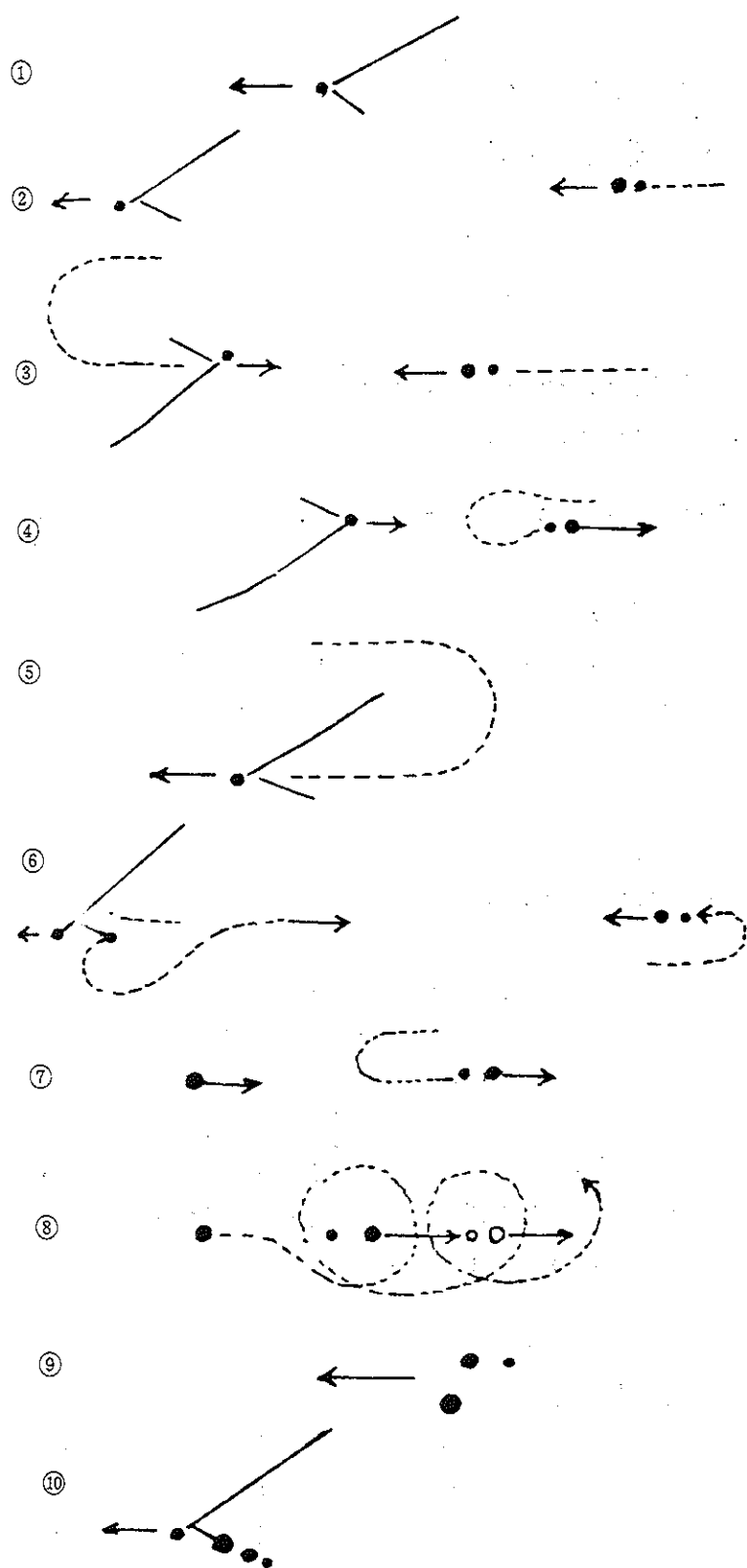
目撃地点は濤沸湖東端域の南方約10kmの地点である(図1)。目撃時の状況は下記の通りである。

図1. オオハクチョウ渡去群の目撃地点、矢印は渡去方向を示す。

Fig.1. Departure swans were observed near Lake Tofutsu. (arrows show the direction of flight.)



\*〒099-36 北海道斜里郡小清水町.  
Koshimizu-cho, Shari-gun, Hokkaido 099-36.



- ① 15<sup>h</sup> 40<sup>m</sup>頃20羽の一群が頭上を通過、南南東の方向に飛行。
- ② 2羽の親子が前群を追尾する形で鳴きながら飛来。
- ③ 2羽の追尾を知ったのか前群はUターンして、後続の2羽を迎えるかの如くバックする。
- ④ 間もなく後続の2羽もUターンして濤沸湖?へ引返しだした。
- ⑤ 前群はしばらく2羽を追尾したが、再びUターンして前のコースを飛行しだした。  
(後続の2羽もUターンして追尾)
- ⑥ 前群の1羽が離脱し再びUターンして後続群の方へ。
- ⑦ これを見た後続群は又反転して飛行
- ⑧ 離脱した1羽が後続2羽のまわりを鳴きながら2度、3度と旋回。
- ⑨ 間もなく3羽はいっしょになり前の群を追跡。
- ⑩ やがて合流して南下していった。

図2. オオハクチョウの群れ形成過程.

Fig.2. Process of the V-shape formation.